

**あいだより 2月号**

社会福祉法人 あい福祉会 あい保育園  
地域子育て支援拠点事業あい

〒905-0017 名護市大中3-6-25 TEL 0980(53)7211  
発行日 令和3年1月26日  
発行責任者 園長山川直子

耕春桜の花もかわいく咲いてきて、見る人の心を癒してくれていると思います。寒い日もあれば、温かい日もある。気温の波も気持ちの波も、子どもも大人もあって当然の日常！いろんな感情は自分の姿を気づかせるきっかけになります。「よしよし、イライラしているんだね」子どもに声をかけるように、自分自身にも寄り添ってあげてください。そして深い深呼吸。ふっーと軽くなりますよ。

支援センターのお友だちも初めての園庭、砂場に挑戦する姿が見られるようになりそれぞれの子ともたちの成長に喜びを感じています。「育休がもうすぐ終わる〜」や「保育園入れるかな？」などの話題が飛び交って落ち着かない時期ですが、親子で過ごせる大切な時間に感謝してゆったり過ごして欲しいと思います。2月もたくさんあそびにきてくださいね！

1月の活動のようす



からだの機能ーおしっこのメカニズムー

0〜6か月ごろ たまるすぐおしっこ  
膀胱におしっこがたまる時、反射的にしてしまうところ。  
おむつはしょっつゆうぬれています。



生まれたての赤ちゃんは、尿意を感じる大脳皮質がまだまったく整っていません。だから「おしっこをしたい」とか「たまった」といった尿意を感じることはできません。したがってガマンすることもないのです。そのため、「おしっこがたまった」という情報が延髄に伝わるとそのまま、反射的におしっこをしてしまいます。

赤ちゃんのころはまだ、膀胱も小さく、おしっここはかなりひんぱんにします。1日に平均15〜20回と、大人に比べて、かなり多い回数です。小さな赤ちゃんの場合、腎臓の動きが未熟なので、濃いおしっこを作ることができず、からだの中の老廃物をおしっこといっしょに外に出すには、うすいおしっこを何度もださなければならないのです。

お母さんとしては、1日中おむつきかえているような気がするかもしれませんが、赤ちゃんのからだのしくみからいってしまうと、大変かもしれませんが、ぬれていたら、そのたびに教えてあげましょう。

6か月〜1歳半ごろ 無意識に膀胱にためはじめ  
膀胱の容量が少し大きくなって、ある程度おしっこがためられるように。  
でも、まだ赤ちゃん自身に尿意はありません。



反射的におしっこをしていた赤ちゃんも、おすわりができるようになると、しだいに少しずつ、無意識のうちにおしっこをガマンできるようになっていきます。延髄での反射に、抑制機能が働くようになるからです。このころになると、おしっこの前のぐずりをする赤ちゃんがいます。大脳皮質がしだいに整い、赤ちゃんも漠然ですが、膀胱におしっこがたまった不快感を感じるようになってきたわけです。

また、反対におしっこが出たあとに泣く赤ちゃんのおしっこのリズムをつかむことができるようになります。

1歳〜1歳半になって、ひとりでもよちよち歩けるようになると、大脳皮質も左半球・右半球とともに、かなり発達してきます。いろいろな情報を適切に処理できる準備が整ってきたことを意味します。膀胱におしっこがたまった感じは、漠然とですが、だんだんとわかるようになります。でもまだのころには、これが「おしっこしたい」という感じなのだ、ということまではわかりません。まれに、「7か月くらいのときにおまるに座らせたら、おしっこをするようになった」ということがあります。それは単なる条件反射。時間を見計らっておまるに座らせられた赤ちゃんが、たまたま反射的におしっこをしただけで、決して「おしっこをしたい」ということをわかって排尿しているわけではありません。

やさしいおむつはずれ 赤ちゃんとママ社より引用